

アクセス至便でポテンシャルの高い産業用地 大阪府

「特区」の支援措置をより強化する「成長特区税制」

新エネルギー、ライフサイエンス分野に強みをもつ大阪府では、「関西イノベーション国際戦略総合特区」と「関西圏国家戦略特区」の指定を受け、特区を活用したイノベーションの創出を図ってきた。さらに、2016年4月からは、「特区税制」を継続強化した「成長特区税制」をスタートし、対象事業に今後成長が期待される水素関連（発電事業用水素発電に係る技術開発や水素ステーションから周辺施設等への水素供給実証などの水素の利用や供給に係る事業等）と健康関連（健康維持又は健康増進に係る測定機器や食品、ICTを活用したシステム等）を加えるとともに、国の特区以外でも府独自で対象区域を追加できるなどの制度の構築により、更なる産業集積等を目指す。

■大阪府のデータ

面積：1,905km²
 人口：8,830,955人（2018年1月1日現在・推計人口）
 府庁所在地：（本庁）〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目
 TEL：06-6941-0351（代）
 ホームページURL：http://www.pref.osaka.lg.jp/



先行エリアでは既に事業進行中 — 「彩都東部地区」 —

彩都東部地区は、新名神高速道路の茨木千提寺ICに隣接する交通至便な立地。

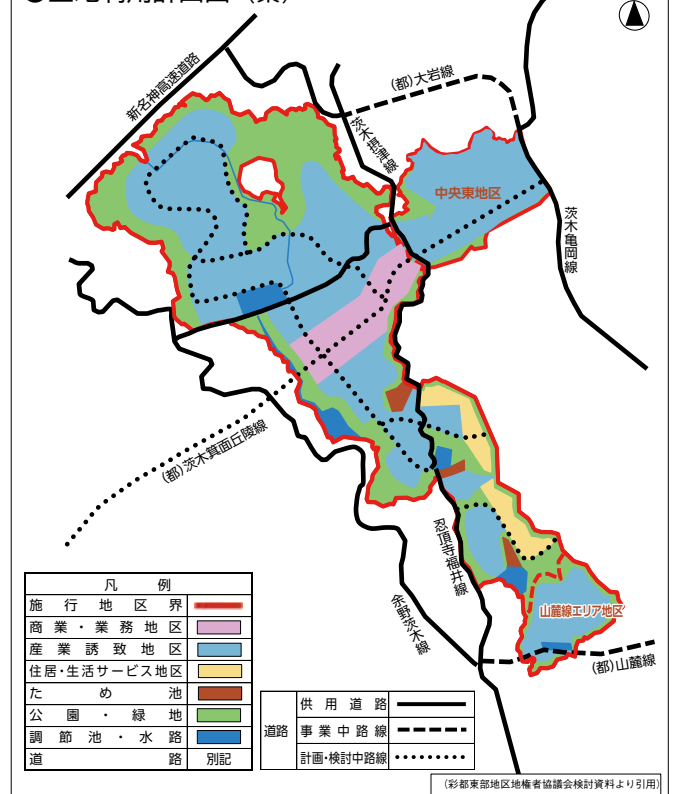
一部区域では既に土地区画整理事業による造成工事が進められており、山麓線地区では「(株)資生堂大阪工場」の進出が決定したほか、2017年5月には阪急電鉄(株)と三菱地所(株)が共同で大規模物流施設を開発することが発表された。

中央東地区でも既に進出事業者の募集が始まっており、造成工事が完成したところから順次土地の引き渡しを行い、2018年の秋頃には施設の建築着手を目指している。

残り区域についても、彩都東部地区地権者協議会において2016年10月に事業化検討アドバイザーが選定され、組合施行の土地区画整理事業の事業化に向けアドバイザーの意見も踏まえながら開発計画案等の検討が進められている。

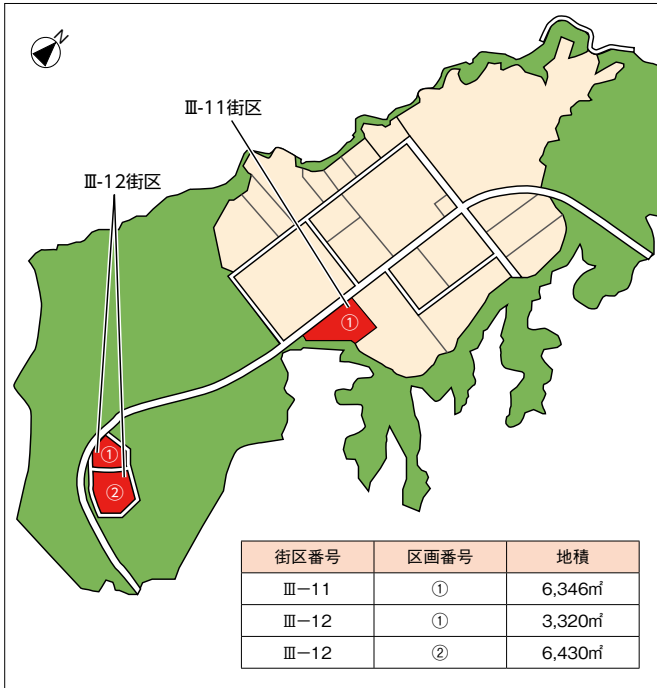
また、その動きに合わせて、必要な都市計画の変更に向け、関係者と協議が進められている。

●土地利用計画図(案)



圧倒的なロケーション —「箕面森町」—

大阪府箕面市に位置する「箕面森町第3区域」は、新名神高速道路箕面とどろみICから約3分、大阪市中心部へも約30分で直結する抜群の交通アクセスを持つ産業団地。周辺を山林に囲まれ、住宅地から低層施設の外観を遮断。住宅の建築を制限することで、24時間操業が可能なことも大きな特徴。2015年に募集を開始した第Ⅰ期は20区画全てで申込みがあり、2018年1月12日より第Ⅱ期の公募を開始し、同年3月16日に開札を実施している。



第2期製造業用地も好評 —「ちきりアイランド」—

「ちきりアイランド」は岸和田市の沖合い、重要港湾の阪南港に位置する埋立事業用地。関西国際空港から車で約15分、大阪市内から約30分という好立地で、陸海空の交通アクセスに優れる。大阪北部の用地と比べると価格も魅力。近隣に住宅が無く、24時間操業できる環境にある。2006年から第1期製造業用地の公募を開始し、既に誘致完了。第2期製造業用地は2015年に合計約10haのうち約3.4haについて先行公募を行い、進出事業者が決定している。今後、残り約6.6haについてインフラ整備と並行して公募を実施し、企業誘致を進めていく。



関空に近い複合都市 —「阪南スカイタウン」—

関西国際空港から車で30分。大阪市中心部や和歌山市へアクセス至便な用地が、阪南市の「阪南スカイタウン」だ。府が1996年にまちびらきした複合都市で、住宅と生活利便施設、

1.6haの事業用地がある。大阪と和歌山を結ぶ幹線道路「第二阪和国道」が、2017年に全線開通し、同タウンから和歌山市域が約10分でアクセス可能。分譲の他、事業用定期借地も可能。



「みどり」を軸とした2期区域のまちづくり —「うめきた地区」—

西日本最大のターミナルである大阪駅周辺地域。2013年4月、大阪駅北側に、“都心に残る最後の一等地”と呼ばれる「うめきた地区（約24ha）」の先行開発区域「グランフロント大阪（約7ha）」がまちびらきした。中核施設である「ナレッジ・キャピタル（知の集積拠点）」をはじめ、オフィス、商業施設、ホテル、分譲住宅からなる複合施設だ。2013年4月のまちびらき以降、順調に来場者が増え、2017年3月には2億人を突破している。

さらに、2024年夏に先行まちびらきを予定している、うめきた2期区域では、まち全体で概ね8haの「みどり」を確保し、比類なき魅力を備えた新たな都市空間を創造するとともに、中核機能として、「新産業創出」や「国際集客・交流」、「知的人材育成」の機能を導入する。また、JR東海道線支線の地下化を行うとともに、関西国際空港に直結する新駅を設置するなどの基盤整備も計画されている。



研究開発・ビジネス拠点 —「咲洲コスモスクエア地区」—

研究開発やビジネス拠点の形成を目指している咲洲コスモスクエア地区には、海辺の緑豊かな154haに、先端技術開発企業の本社や研究施設・データセンター・研修所など先進的な都市機能施設が集結している。

さらに、2024年夏に先行まちびらきを予定している、うめきた2期区域では、まち全体で概ね8haの「みどり」を確保し、比類なき魅力を備えた新たな都市空間を創造するとともに、中核機能として、「新産業創出」や「国際集客・交流」、「知的人材育成」の機能を導入する。また、JR東海道線支線の地下化を行うとともに、関西国際空港に直結する新駅を設置するなどの基盤整備も計画されている。

この地区では、2016年に、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）の世界最大級の大型蓄電池システム試験評価施設（NLAB）が立地し、開発企業などと共同試

験に取り組んでいる。また、同年10月には、先端的な成長産業事業に対して税制優遇を行う大阪府・市の制度を活用し、薬科機器の開発、製造販売を手掛ける富山産業株式会社が進出を決定した。

